

議 会 は 府 言 論 の 府

市民の利益守って

今年最後の市議会を終えて



さえき由恵 議員

市議会を活性化

日本共産党議員団

総選挙と同時並行で行われた、今年最後の12月市議会は、先月25日に開会し、16日間の会期を終え、今月10日に閉会。

「議会は言論の府」と言います。地方自治の二元代表制の一翼を担う市議会。その最大の任務は、市民の立場で行政をチェックすること。そして、議論を活発に行って、住みよいまちづくりをすすめること。これが、地方自治と地方議会の原点です。

日本共産党の4人の議員団は、常にこの立場で議会活動に取り組んでいます。12月市議会でも本会議と委員会において、◆議案に対する質疑、◆議案の問題点を明らかにする討論、◆市民のくらしを守る修正案の提案、◆請願採択に向けて、◆市民の声を市政に反映させる質問等、あらゆる場面で市議会と議員の役割を果たしています。共産党議員団は、市議会活性化の推進力となっています。

本会議で質疑

条例や予算など市議会で議決したことは、11万5千市民を拘束することになります。それだけ議員の責任は重いと言えます。

12月市議会に大橋良一市長が提出した

議案は、補正予算や幼稚園・保育所の保育料を定める条例など、全部で22議案。

11月28日の本会議で



議案に対する質疑が行われ、3人が質疑しました。うち2人は、日本共産党議員団のさえき由恵議員と小坂徳蔵議員。内容は、幼稚園・保育所の保

育料の条例改正、補正予算や新規条例等の6議案。市民を拘束する条例について市民の立場でたどりました。

共産党議員団の存在で、行政のチェックがしっかり果たせているといえます。

保育料の修正案

来年4月から始まる、子ども子育て支援制度。幼稚園や保育所の保育料がどうなるのか、保護者にとって一番の関心事です。今回市長は、保育料を改正する条例を提案。

ところが、本会議におけるさえき議員の質疑で保育料の過大な値上げが含まれていることが浮き彫りに。その内容は、年収360万円以上の保護者に、年間1万2千円〜2万4千円引き上げ、保護者の

負担増は年間356万円。

共産党議員団は、貧困と格差社会のもとで、子育て世代を応援



する立場から議案提案権を活用し保護者負担を半額におさえる修正案を提出。しかし、他党派の議員は黙って反対。共産党議員団の市民の立場に立った、道理ある提案にひとことも言えない―これが実態です。

「請願」採択を

今期市議会に、共産党が紹介議員となって2件の請願―30人学級など「ゆきとどいた教育の推進をもとめる請願」、

「高校・大学教育の無償化をもとめる請願」を提出し、民生教育委員会でも審議しました。

政府は現在の小1・2の35人学級を40人学級に戻す考えです。このため請願は、少人数学級を推進するよう求めています。

また、政府は12年に「高校と大学を段階的に無償化する」という国際人権規約を承認しています。しかし具体化されていません。そのため請願は給付制奨学金の創設を求めています。



共産党は紹介議員として、委員会で趣旨説明と質疑に応答。さらに、最終日の本会議では採択を求める立場で討論。他党派は、理由も述べずに反対。無責任な態度です。



市議会 自浄能力を発揮

9月、「議員の親族企業が市公共工事を受注し、市議会議員政治倫理条例に違反している」と市民から議長に調査請求が提出され、市議会は政治倫理審査会を設置し、4回にわたり慎重に調査を実施。その事実を確認しました。そして審査会は、12月市議会閉会後の議員全員協議会で、審査結果を報告し、議員全員が了承。これを受け議長は請求者に結果を通知し、市民に公表（下）、さらにマスコミに発表しました。また、該当する3議員に対し、条例はじめ法令遵守の徹底を求めました。この問題で市議会は自浄能力を発揮し、是正を図ることができたといえます。その役割を果たした審査会。会長は小坂徳蔵・党議員団長が務めました。

政治倫理違反で調査

市民のみなさまへ

加須市議会議員政治倫理条例違反の調査結果について

加須市議会議員が加須市議会議員政治倫理条例第4条「市の工事等に関する遵守事項」に違反する疑いがあるとして、平成26年9月1日付で市議会議員長に対し、条例に沿って調査し、審査結果について市民への公表等を求める調査請求が提出されました。

市議会は市民の調査請求に基づいて平成26年11月7日、条例第6条に則って加須市政治倫理審査会を設置し、4回にわたって、慎重に調査を行ってきました。市議会議員長に対して、同審査会から12月8日、審査結果について報告書が提出されました。

審査会の調査によって、市民から疑念が指摘されていた、田中良夫議員及び小林利一議員、並びに栗原肇議員の当該3議員に条例第4条違反の事実が確認されました。

この結果をふまえ、当該3議員の親族企業3社は、加須市長に対して「競争入札参加資格の抹消に関する変更届」（指名参加願取下げ）を提出しました。

この措置によって、当該3議員の親族企業が、市から指名競争入札に指名される根拠がなくなり、今後、公共工事を受注することもあり得ません。

本市議会は市民の代表である議員が、条例はじめ法令遵守を徹底し、「市政に対する市民の信頼にこたえ、清潔かつ公正で開かれた民主的な市政の発展に寄与する」（条例第1条）ため、引き続いてその職務を真摯に果たす所存です。以上

平成26年12月10日

加須市議会議員長 平井喜一郎

高齢者の尊厳守り

共産党議員団4人は一般質問で、15項目を取り上げ、市政を前にすすめる論戦を展開しました。

さえき議員は、政府が来年4月から介護保険を全面改悪し、◆要支援者を介護保険の対象外にする、◆要介護1・2は施設入所の対象外にする問題―を取り上げ、高齢者の尊厳を守る立場で質問。同法に規定している、移行時期の先送りや特例入所をふまえ現行のサービスが引き続き受けられるよう提案。市長は「対象となる方が不安感を高めないうよう、移行時期については適切な時期を見極めたい」と答弁しました。



「新種足橋に歩道橋を」

60団体・468人の署名

さえき議員は議会内外で市民の声や地域の願いを市政に届けています。10月30日、種足区長会は、市役所内の市長室を訪れ、大橋市長に「新種足橋・歩道橋設置を求める要望書」に60団体・468名の署名を添えて提出しました。区長会から野崎会長はじめ役員及び地元区長の計4人が出席し、さえき議員も同席しました。

さらにさえき議員は、「これは種足地域全体の声。特段のご配慮をお願いしたい」と重ねて要望しました。

市長は、「たくさんさんの署名ですね。種足地域が一体となって、地域を良くしたいと一つにまとまっています。検討していきたい」と述べました。



市長に提出した要望書

住民と力合わせ



今年は総選挙で大躍進することができました。大変お世話になりました。来年も頑張ります。みなさま、よいお年をお迎え下さい。